

世代を結ぶ、共生の家



家が人を「つなげる」

計画地を富山県黒部市生地に設定する。生地は高齢化が進む一方で、古くから住む人とYKKで働く人が住む町である。また、富山県は全国でも4位に入る共働き率の高さを誇る。生地には、共働き世帯の誰もいない家に帰る子供と地域に根付く高齢者がいる。そこで、高齢者の方々が子供を見守り、子供たちは高齢者とコミュニケーションをとることができる、地域住民同士が見守りあい、「人」と「人」を「つなぐ家」を提案する。

【清水がつなぐ人と人】

近所のおじいちゃん、おばあちゃんは、孫を連れてやってくる。やってきたおじいちゃん、おばあちゃんは、清水で淹れた美味しいお茶を飲みながら、この家の祖母とバルコニーで話すことができる。孫はこの家に住む兄妹と屋根の上で走り回ったり、水たまりで遊ぶ。子供たちはのどが渇くと清水をゴクゴクと飲む。そして、自然にコミュニケーションが広がっていく。

【芝生の屋根がつなぐ人と人】

休みの日、近所の親子は、子供を連れてやってくる。親はこの家の父母と話したり、清水を使ったり、子供と一緒に遊ぶ。雪が積もると子供は、この家に住む兄妹とそり滑りをしたり雪だるまをつくって遊ぶ。そして、親同士、子供同士、さらに親子のコミュニケーションを取ることができる。

【畑がつなぐ人と人】

この家に住む家族は、祖母が兄妹と畑で野菜を育て、育った野菜を兄が清水で洗い冷やす。そして、清水の横にある窓からキッチンにいる母に渡す。母と妹は冷えた美味しい野菜をすぐ調理することができる。休日には、父と兄妹が屋根や水たまりで遊んだり、とれたての野菜をその場で食べることもある。家族同士のコミュニケーションが広がる。

この家では、そんな様々な「人」と「人」の「つながり」をつくることができる。

生地の清水について

生地（いくじ）は、富山県黒部市に位置する町である。古くから北アルプスの山々から黒部川へと水が流れており、この水が地下水となり、生地のいたるところで清らかな湧き水となって、地表に出てきている。この湧き水を「清水（しょうず）」と呼び、飲み水や炊事、洗濯など家事の様々な場面で使用してきた。人々をつなぐ重要な生活用水となっている。



配置図兼一階平面図



S = 1:100

家族構成

- 父 (42) 趣味：子供と遊ぶこと
- 母 (38) 趣味：料理
- 兄 (11) 趣味：外で遊ぶこと
- 妹 (9) 趣味：家族のお手伝い
- 祖母 (65) 趣味：人と話すこと
野菜を育てること

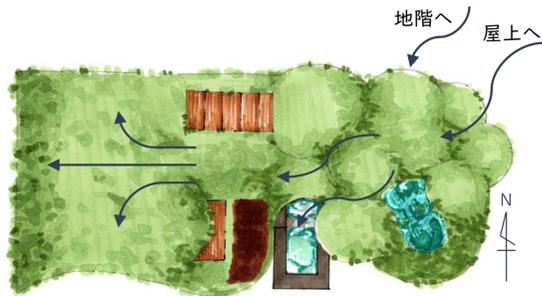


面積表

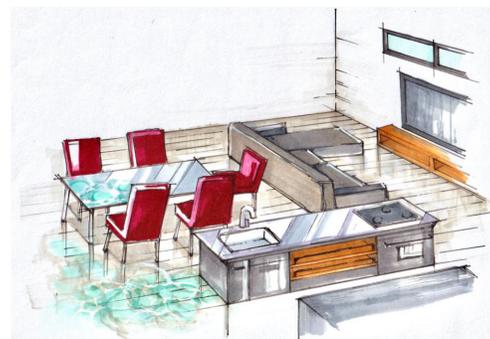
- ・敷地面積 330㎡
- ・建築面積 155.12㎡
- ・延床面積 136.68㎡

あいの風について

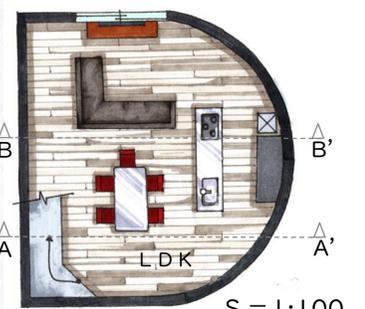
あいの風とは春から夏にかけて吹く北東のさわやかな風をいう。古く万葉集の時代から「幸せを運ぶ風」として県民に親しまれている。この住宅では、右図の向きに吹き、屋根の上を心地よい風がスッと通り抜ける。そんな屋根の上では昼寝や、ぼーっと休憩するのもいだろう。屋根の上で座り、立山を眺め、疲れを癒すのに最適だ。北側には地階に風を取り込む窓がある。北側に設けられたドライエリアからLDKに心地よい風が流れる。



屋根から床まで



地階平面図



S = 1:100

清水の水をポンプで屋根上まで上げ、水張りの天井をつくる。暑い日は子供たちが遊び、リビングに落ちる影の形を変える。

屋根や清水の使い方



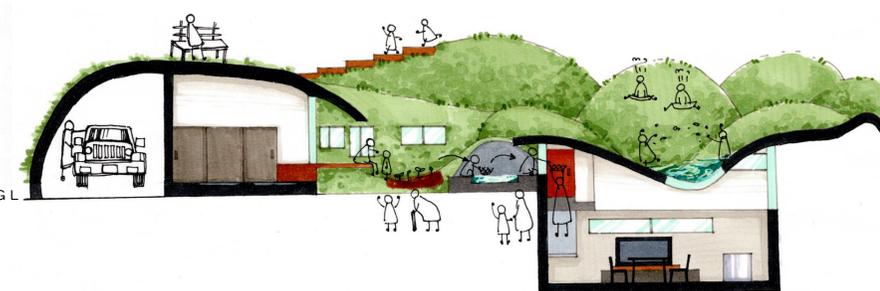
兄妹は祖母に野菜の育て方を教えてもらいながらお手伝いをする。暑やりには清水を使い、美味しい野菜を作る。

屋根にはポンプで上げた清水の水溜りがある。暑い日は、ここで体を冷やすことができ、地階への冷却効果も期待できる。

清水では、水を飲んだり、洗濯をしたり、作物を冷やすなど様々な使い方ができる。

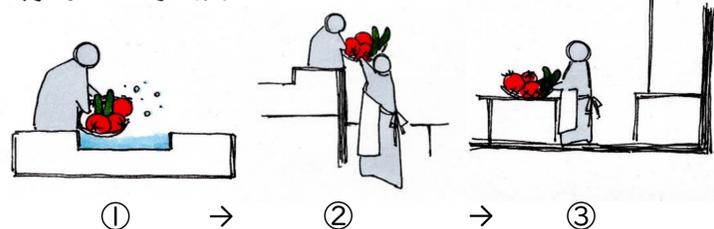
生地の積雪量は富山の中では少なく、屋根には遊ぶのに丁度いい量の雪が積もる。冬には屋根でソリ遊びなどの雪遊びを楽しむ。

断面図

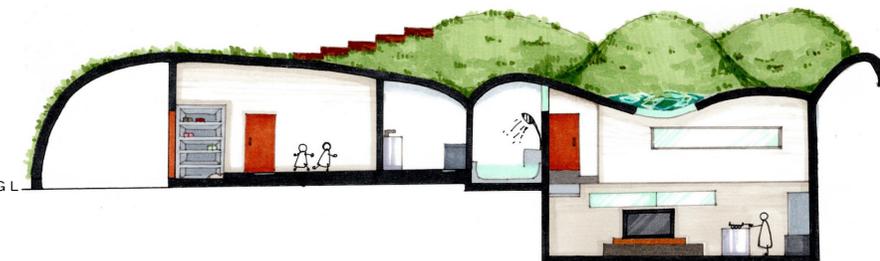


AA' 断面図 S = 1:100

清水と家族



- ① 兄妹が清水で野菜を洗う
- ② 洗った野菜を清水の隣にある窓からリビングにいる母に渡す
- ③ 野菜を受け取った母はそのまま調理ができる



BB' 断面図 S = 1:100